

狭山事件60年

③

県内支援者の思い

埼玉真狭山市で1963 務局長は40年余り前、自
年5月1日に発生した狭山 治労の部落解放運動の一環
事件の支援活動では、事件 で初めて現調に参加した時
現場周辺を歩きながら、石 のことを忘れない。今は亡
川一雄さん(84)の捜査段階 き石川さんの父富造さんと
の自白や確定判決の矛盾点 母リイさんが息子の無実を
を学ぶ「現地調査」が頻繁 訴えていた。

穏やかな口調ながら強い意 体連(合会)の先輩だった。
思をにじまるリイさん。「両 2人が96年に結婚したとき
親にここまで言わす権力と は、実行委員長となって祝
は何なんだろう」とやるせ う会を徳島駅前焼き肉店
ない思いに駆られ、「支援 で開いた。その際、「これ
運動をやり遂げる」と誓っ て終わったらもったいな
い」と、祝う会を母体とし

弁護士に依頼し、三橋さん 日と東京高裁で確定判決が
は事務局を引き受けた。木 言い渡された10月31日に、
村弁護士は後に石川さんの 一言書き添えたはがきを東
再審弁護団に加わった。 京高裁と東京高検に送る。
40歳をすぎて管理職とな 「送ったら必ず見てくれ
り、労働組合から離れた。 いる」という木村弁護士の
組織としてではなく、個人 言葉を励みに、会の活動の
としての自分に何ができ 柱として続けている。

に行われる。「げんちよう」 事件発生当日、「一雄さん
と呼ばれ、集会と並ぶ闘争 さんは家にいたと話し、「一
の柱となっている。 雄はやっていない」と力説

三橋松男さん(66) 県労 する富造さん。傍らで「皆
働者福祉協議会専務理事 さん、一雄をよろしく」と

三橋 松男さん(66)

両親見て「完遂」誓う



狭山事件への思いを語る三橋さん。スーツの左襟には「SAYAMA」バッジ=徳島市昭和町3の県労働者福祉協議会

「生活の一部にせなあかん」と思い至った。手本となっ
たのが、早くからたった1 人です。再審開始を求めるはが
きを東京高裁に送り続けて いた早智子さんの行動力
だ。

徳島の会は早智子さんの 思いを受け継ぎ、石川さん
が別件で逮捕された5月23 振ろう。(須見千次郎)

メモ

現地事務所

西武新宿線狭山 市駅に近い石川一雄さんの
自宅跡には現地事務所があ り、現地調査の拠点となっ
ている。事務所内には、火災 で焼失した石川さん宅の一
部が同じ大きさで再現され ている。1963年6月、石
川さんが「自白」した後に
行われた3度目の自宅捜索で
被害者の物という万年筆が
見つかったとされた勝手口
のかもしれないと再現されて
おり、不自然な発見の経緯が
分かるようになっていた。